

---

男女共同参画推進ワークショップ

## [GE1]ただ今、創薬ベンチャー社長に挑戦中

委員長挨拶：小出 寛（順天堂大学），講演者ご紹介：瀬尾 美鈴（京都産業大学）

2021年11月4日(木) 12:05 ~ 12:55 チャンネル3

主催：日本生化学会男女共同参画推進委員会

---

12:10 ~ 12:45

## [GE1-2]ただ今、創薬ベンチャー社長に挑戦中

○加藤 珠蘭 (株式会社ジェクスヴァル)

キーテクノロジー：ドラッグリポジショニング

キーワード：男女共同参画、創薬ベンチャー、キャリア、ドラッグリポジショニング、希少疾患

info@gexval.com

たまたま、生まれたタイミングの関係で、「ポストクワン万人計画」のまっただ中にポストクワンになったリケジョ。どちらかという、「ピカイチではない」「リケジョ」。がん分子標的薬の快挙に沸いてちょっと落つつきかけた時代に渡米。心の広いボスの下で、やや長めのポストクワンを終えて帰国して、製薬大手に就職。製薬大手で研究生生活を満喫するも、時代は、業界全体としての転換期。ある日突然、上司がノンジャパになり、会社は「自前主義」から「エクスターナルイノベーションモデル」へ舵をきる。

創薬ビジネスは、あらゆる業種を通じてもちよっと特殊だ。規制当局の影響を受け、時間とコストがかかる一方で、何事もやってみるまでわからず。「薬価問題」他、業界として取り組むべき課題が山積。そんな中、業界がひねり出したベストアンサーは、「リスクの高いシーズの創出はアカデミアやベンチャーが担い、製薬企業は大規模な投資を伴う後期開発に注力」という分業モデル。

そんなこんなで飛び込んだ起業の世界。書いても書いても、出し直しになる事業計画、「ピッチ」に明け暮れる資金調達の日々。とにかく、毎日、新しい課題が押し寄せる。スタートアップベンチャーの寿命は、3年といわれ、離陸せず、離陸しても飛ばず、飛んでも着陸できず、という世界。

少しも簡単ではないけれど、なぜそんな世界に飛び込んだかと言えば、ある日仕事で、希少疾患の患者さんとお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに出会ったから。10,000人の参加者が往来する巨大な学会とは全然違う、希少疾患の学会。出会ってみるまで知らなかった事実-7000種類もあると言われる希少疾患のわずか5%にしかお薬がない。あったとしても、高額で一部の国の一部の人が使えないこともある。命に関わる病気もあれば、長い一生、向き合っていないいけない病気もあり、その一つ一つにお薬を必要としている人がいる。

創薬にはリスクがつきもの。問題は誰がリスクをとるのか？誰かがやってみないことには始まらない！幸い、支援してくれる仲間も、アドバイザーも、先生方も現れ、一緒にリスクをとってくださるインベスターも現れた。進む方向があっているのかどうか、最後までわからないけれど、少しでも正しいと思う方向にがむしゃらに走り続ける毎日。

日本には、大勢の博士号取得者がいる。ちょっとググってみれば、\*\*省の詳細なデータがあって、他の国とはちょっと違う日本の理系の博士が置かれている状況が見えてくる。キャリアについて考え始めたあなたに、n=1として、「挑戦すること」へのインスピレーションを与えることが出来れば。

ただ今、創薬ベンチャー社長に挑戦中。